

# 熱傷(やけど)の知識とその予防

## 熱傷(やけど)とは？

一般的に、「やけど」と言われるものは医学的に「熱傷(ねっしょう)」と言います。熱湯や油などの熱により生じる皮膚や身体の損傷のことをいい、化学薬品や電気などが原因で生じるものも含まれます。また、火災の時には高温のガスや煙を吸い込むことによって「気道熱傷」を引き起こす場合があります。気道熱傷は熱により咽頭(鼻・口の奥)や喉頭(のど)がただれ、空気の通り道が狭くなり、ひどくなると窒息の危険性があります。



## やけどの分類

### ・高熱による熱傷(一般的なやけど)

やけどの原因で最も多く、70℃以上の温度にさらされた場合はおよそ1秒、60℃ではおよそ10秒で熱傷を生じます。



### ・化学熱傷

強い酸性やアルカリ性など、刺激性の強い化学物質が皮膚に触れることで発赤、発疹などの障害が起きます。身近なものでは、パイプ用洗剤や漂白剤などがあげられます。

### ・低温熱傷

比較的温度の低い湯たんぼやカイロ、電気カーペットなどに長時間接触することで生じるものをいいます。44℃の温度でも6～7時間接触すると低温熱傷を生じることがあります。



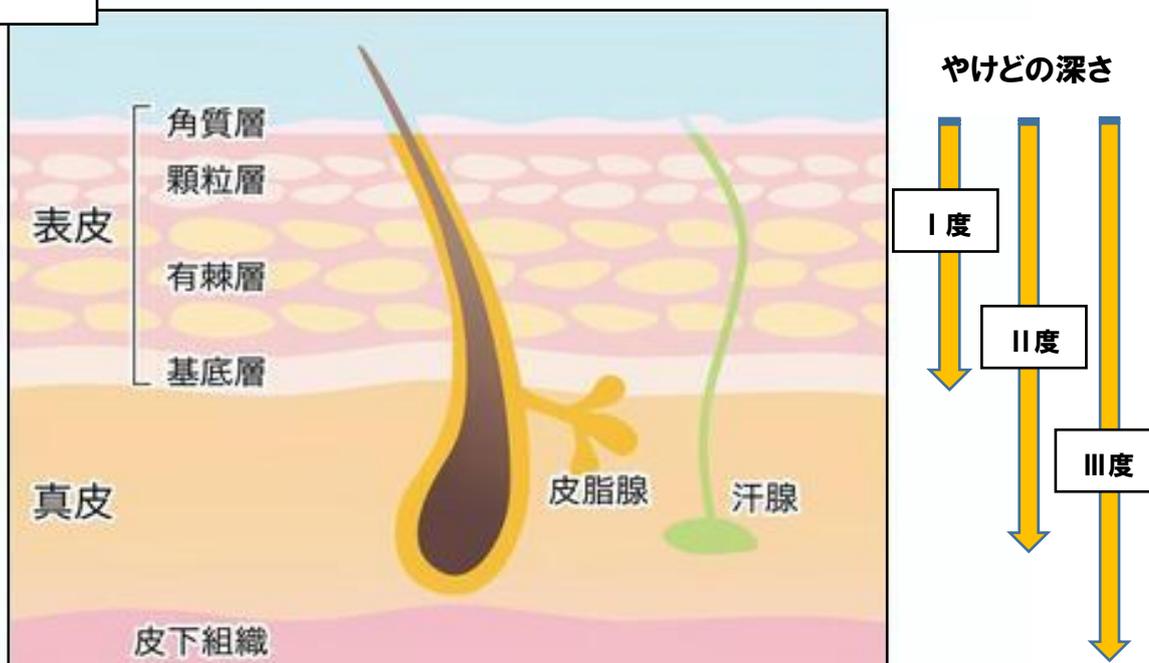
## やけどの深さ

皮膚の浅いほうからⅠ度、Ⅱ度(浅達性)、Ⅱ度(深達性)、Ⅲ度に分類されます。

熱傷深度	Ⅰ度	Ⅱ度(浅達性)	Ⅱ度(深達性)	Ⅲ度
障害組織	表皮	表皮	真皮	真皮 皮下組織
外見	発赤	水疱形成	水疱形成	白色で固い皮膚
症状	疼痛、熱感	疼痛 灼熱感 知覚鈍麻	疼痛 灼熱感 知覚鈍麻	疼痛なし
治療期間	数日	約 10 日間	3週間	自然治癒なし 瘢痕拘縮

※水疱とは一般的に「水ぶくれ」と呼ばれています。

### 皮膚の断面



**Ⅰ度**: 皮膚が赤くなり、ヒリヒリと痛む程度で一番浅いやけどです。俗にいう「日焼け」はⅠ度のやけどです。経過は数日で自然に治ります。

**Ⅱ度**: 皮膚に水疱(水ぶくれ)ができ、激しい痛みを伴う、中間の深さのやけどです。腫れや痛みが強い場合は医療機関を受診してください。

**Ⅲ度**: 最も深いやけどで、水疱(水ぶくれ)にならずに皮膚が真っ白になったり、黒く焦げたりしてしまいます。ここまで深くなると、痛みをあまり感じなくなります。自然に治るのは困難なため、必ず医療機関を受診してください。

## やけどの事例紹介

- ★7か月男児 ヒーターと足が接触してしまった。⇒Ⅱ度熱傷(水ぶくれ)
- ★4歳女児 花火の火が足に当たってしまった。⇒Ⅰ度熱傷(発赤)
- ★73歳男性 味噌汁をこぼし足にかかった。⇒Ⅰ度・Ⅱ度熱傷(発赤・水ぶくれ)
- ★85歳女性 ポットのお湯が足にかかった。⇒Ⅱ度熱傷(水ぶくれ)



※やけどは範囲によって、分類が混在することもあります。(例えばⅠとⅡ度の混在)

## やけどを予防するには

### ◎食べ物・飲み物など

- ・熱いものを運んでいる際に、転倒しないよう足元は常に、整理整頓しておく。
- ・子どもにお手伝いさせるときは熱すぎるものを運ばせない。

### ◎調理器具など

- ・ポットなどは子どもの手の届かない場所に置く。
- 万が一転倒させてもこぼれないような物を使用する。高温蒸気にも注意する。



### ◎暖房器具など

- ・湯たんぼなど、厚手のタオルや専用カバーなどで包んでいても低温やけどはおきるので注意する。
- ・コンロの火や仏壇のローソクの火が衣類に着火してやけどをすることがあります。生地の手袖や裾が広がった服は着火に気づきにくいので注意する。

## やけどの対処法

◎やけどをしてしまったら、できるだけ早く水道水などで冷やします。(目安は10～15分くらい、痛みが和らぐまで。冷やしすぎると低体温症をまねきます。)

◎衣類は無理に脱がさず、衣類の上から水をかけて冷やします。



◎水ぶくれはなるべくつぶさないようにしましょう。(水ぶくれは、やけどの傷口を保護する役割があります。)

◎広い範囲のやけどは、清潔なタオルなどで覆って水をかける、または水に浸した清潔なタオルなどで冷やします。

◎薬品などは塗ってはいけません。他に、民間療法で昔から言われている「アロエなどを塗ると治る」などの方法ですが、感染症を引きおこしたり医療機関での治療の妨げになったりしますので絶対に行わないでください。

## まとめ

やけどにもいろいろな種類があり、やけどの深さでⅠ度からⅢ度まで分かれています。やけどの種類によって応急処置や対処法が変わってきます。「いざ」という時に焦らず適切な行動がとれるように、正しい知識を身に付けておきましょう。また、自分だけでは対処が難しいようなやけどや、気道熱傷で声がかすれたり、呼吸がしづらいような症状が出た時には、すぐに医療機関を受診するか、迷わず救急車を呼ぶようにしてください。

急な病気やケガなどで「救急車を呼ぶか」、「病院に行くか」迷ったときには

長野県救急安心センター（令和5年10月1日（日）午前8時から運用開始）

 **#7119**  **（相談は無料）**



※ダイヤル回線、IP電話の場合は、「026-231-3021」へおかけ下さい。

大人（概ね15歳以上）の方が対象です。症状を伺い、看護師がアドバイスします。

子供（概ね15歳未満）の場合は **#8000**  受付時間：毎日19時から翌8時まで

受付時間 平日：19時から翌8時まで 土・日・祝日：8時から翌8時まで

**緊急・重症の場合は迷わず119番に通報してください**

予防方法や対処法をしっかりと覚え、危険性を知っていれば事故を起こさないようにできると思います。日頃の心がけて防げるものがありますので、熱傷を未然に防ぐために日頃から意識をし、熱傷への予防対策をとりましょう！！



担当 鶴賀消防署豊野分署